

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

NO. 2

発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
発行日 平成15年10月30日発行

第9回日本アグーナリーに参加して 僕のバリアフリー

のり君と僕が出会ったのは、石川県能登半島で開催された「第9回日本アグーナリー」の会場でした。

日本アグーナリーとは、障害のあるスカウトが全国から相集い、仲間とのキャンプ生活やプログラムを通して、自信と勇気とに満ちた生活態度を自ら獲得し、積極的に社会生活に溶け込めるようにすることを目的とした大会です。

のり君は、小学4年生の男の子です。手足は自由に動かせるのですが、自分の気持ちを表現したり、言葉にすることが苦手なようでした。参加した障害スカウトの中では、体が一番小さかったように思います。

のり君の第一印象は、自分のテントサイトの中で一番障害が重いように見え、表情も硬く、これから始まるプログラムに不安を感じているようにも見えました。

僕はそんなのり君を見て、どのように接していけば良いか分かりませんでした。

「のり君、それじゃあ行こうか」と声がけをしましたが、返事は無く無表情でした。そんなのり君の手をひいて、道々僕は違和感を感じていました。

以前、僕は学校の福祉委員として、福祉施設を訪問したことがありました。その時僕は、初めて障害者と直接に接したのです。

この障害者と接した時間は極く短く、僕がのり君の手をひいて感じた心の違和感はこのような体験があったからかも知れません。

僕達は場内プログラムの「わくわく夢ランド」に行くことにしました。僕はこともあろうに、のり君のことをすっかり忘れてしまい、友達と一緒に遊びを楽しんでいました。僕はふと我に返り、のり君を探すと、のり君は大人の団委員長さんに遊んでもらっていました。バツ悪く思った僕は、「のり君、おいで」と声掛けをしたところ、のり君は僕のそばに来てはくれましたが、自分から進んで遊ぼうとはしませんでした。

また、僕たちはラベンダー畑にも行きました。ラベンダーの香りを嗅ぎながら、花摘みをしました。のり君にも花摘みをさせてあげようと思い、はさみを持たせようとしたところ、刃物を持たせてはいけないと隊

塩竈1団ボーイ隊 小山 賢旭（中2）

長から注意を受け、のり君は花を摘むことができませんでした。のり君は、顔をしかめ体を揺さぶっていました。キャンプに参加する前に、障害者には刃物を持たせてはならないと言われていたことを忘れ、のり君に余計な期待を持たせてしまったことを反省しました。刃物はのり君にとって危険な物なのです。体を傷つけては元も子もないのです。僕はのり君のためにラベンダーを摘みました。のり君は僕の手からラベンダーを受け取ると嬉しそうに笑っていました。このこと以来、のり君は活動する度に「おやまあー、おやまあー」と僕の名前を呼ぶようになったのです。



9 N A 県連盟派遣スカウト

僕とのり君との距離がぐっと縮まってきました。僕が感じていた違和感のはのり君も感じていて、僕の無責任な行動でのり君は僕に心を開かずじっとしていたのです。しかし、僕がのり君の気持ちを知らうと努力したことを、のり君は認めてくれて心を開いてくれたのです。障害者も健常者も感じることは同じで、みんな同じ人間なのです。

僕はバリアフリーとは、心の障壁を無くすことなのだということが出来て、このキャンプに参加して本当に良かったと思っています。

学校の授業やニュースなどで知り得たバリアフリーよりも、本当のバリアフリーが生まれてくるのです。

はじめてのアグーナリー

仙台12団BS隊 佐藤祐紀

7月30日夕方アグーナリーに出発しました。金沢に着いたのが朝方だったので、つかれてしまいすこしおなかがいたくなりました。

でも、すぐになおりました。日曜日に、こうたいしでんかがおいでになり、あくしゅをしていただきました。それから、おまつりをしていろいろのゲームをして楽しかったです。7日間は長かったけれど思ったよりつかれませんでした。みんなに「こうたいしでんかとあくしゅできてうらやましい」と言われました。

アグーナリーの思いで

仙台12団BS2隊 渡辺滉司

「第9回日本アグーナリー」が石川県珠洲市「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」で、7月31日(木)～8月4日(月)までの5日間、全国のスカウト仲間が集まり、いろいろなプログラムに参加しました。

場内プログラムでは、さいしょにクラフト教室、つぎにシルクプリントに参加しました。クラフトのローソクたてはカッターできざんだりドライバーなどで石をはずしました。やわらかい石ですぐにはずれました。シルクプリントは、アクセサリーのもようを緑でTシャツにプリントしました。

場外プログラムでは、ラベンダー畑と乗馬体験コースに行きました。ほくはしろい馬に乗れて、きもちよかったです。

約2メートルのたかさのつなわたりは、とてもこわかったけれど、おうえんをもらってなんとかわたることができました。うれしかったです。さいごに石川のタベというお祭りがいちばんたのしかったです。そこには皇太子様のご臨席をいただきました。鍊くんが12団をだいひょうしてお話しをしました。ほくも近くにいることができて、とてもよい思い出になりました。

夜店では車を3台とれました。しゃてきというゲームを5回もやりました。森のゲームやさんで3点をあてて、緑の車で火花がでるかっこいいものをもらうことができて、うれしかったです。だいにんきでした。また4年後のアグーナリーにもぜひ参加したいです。

とてもたのしい5日間でした。一生わすれません。ほくがだいひょうして、きねんに手形をのこすことができたので、また石川県のほうにもりようをして、その手形もみたいです。



輪島君の力強い決意

輝いていたスカウトたち

仙台12団BS隊副長 網田文恒

初めて親元から離れてキャンプ生活をした子供達は不安を全く感じさせない雰囲気でした。起床して顔を洗うことから、食事の準備、後片付け、一生懸命プログラムに参加している姿は夫々が輝いて見えるようになりました。

団委員長のご指導で隊旗を一人でセットできるようになったスカウト、皇太子殿下の行啓に伴ない、身の回りのゴミを進んで拾ったスカウト、大人の身の丈よりかなり高い位置のモンキーブリッジを必死に渡り切ったスカウト、緊張の余り顔を上げられなかったけれど一生懸命皇太子殿下の御接見時に返事をしながら答えていたスカウト、全員が目前のことに必死にチャレンジした結果一回り大きくなったような気がしました。

最後に全員がアグーナリードリームアワードの認証を舞台の上で一人ずつ授与されました。夫々が最高のアグーナリーだったと思います。

次回もこのような機会があれば、また参加したいと思います。

第9回日本アグーナリー宮城県連盟派遣壮行会 元気で行ってまいりま～す

日本アグーナリー

県連派遣団

22人を激励

塩釜で壮行会

四年に一度開かれる障害者を持ったボーイスカウトらの全国大会「第9回日本アグーナリー」に参加する日

本ボーイスカウト県連盟派遣団の壮行会が二十七日、塩釜市公民館で開かれた。

小・中・高校生の隊員や連盟の指導者ら大会に参加する二十二人と子どもたちの父母らが出席。郷家智道隊長(左)があいさつした後、輪島悠人君(右)が「元

気で行ってきます」と力強く決意を述べた。

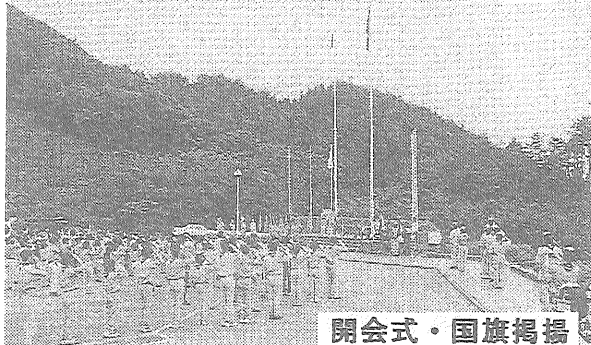
日本アグーナリーは三十一日から八月四日まで石川県珠洲市で開かれ、全国各地から約二百人が参加。キャンプ生活を通じて交流を深める。

仙台地区協議会創立 35 周年記念第 7 回キャンボリー開催される

仙台地区広報委員長 柿沼富雄

ボーイスカウト仙台地区協議会創立 35 周年の記念行事の一つとして、地区キャンボリーが 8 月 1 日から 4 日まで「花山の自然に抱かれて」～生きる力を育もう～をテーマに国立花山少年自然の家を会場に開催されました。

ボーイスカウトは 1 日から 4 日迄、野営を行い、混成隊でプログラムに挑戦、カブスカウトは 1 日～3 日迄、自然の家に泊り、ビーバースカウトは 2 日のビーバーディーに参加しました。開会式では、野中大会会長から「ボーイスカウト運動は、世界的運動で、今日まで 96 年も続いています。日本連盟、宮城県連盟、団となって活動するため、35 年前に仙台地区協議会が生まれました。現在 15 ヶ団 850 名のスカウト、スカウターが 246 名集まりました。互いに大会趣旨にのっとり、「友情を深め、自助、協助、及び公助して、意義のある野営大会を行いましょう。」と挨拶がありました。



開会式・国旗掲揚

全体プロとして 2 日の夜は、花山の夕べと題して、すりばち広場でダーツ、フリスビー等、11 種目があり、その内、6 種目終了して、最後に役員とジャンケンして勝った者がジュースをいただく。5 回も 6 回も挑戦してやっとジュースをもらった子も何人かいた。楽しい花山の夜でした。

又、今回のプログラムの中で大きな目玉は、3 日の

夕食で、ボーイ隊の混成隊による料理コンテストで〔主食材：ニワトリ 2 羽（冷凍のもの）〕鶏肉をつかった料理を三品作るということで、各隊で、数日前からお母さんに聞いたり、料理の本を見たりと大変苦労したとか。6 隊から出品された料理にはレストラン級もあれば、居酒屋風、下宿のおばさん風、そして家庭風と創意工夫で作った仲々の出来、審査の方々も、1：見た目、2：味、3：アイディアの 3 点に、頭をかかえていました。



料理コンテスト審査風景

その結果、仙台 41 団、34 団の混成隊が第 1 位に輝いた。スープ、サラダ、ハンバーグ、鶏肉の味付けごはん、特にハンバーグの上のソースがつやがあり、味がいい。そして一寸、一輪の野の花を添える繊細な料理人の心の優しさがあったようです。

天気には余り恵まれなかったが、花山の自然の中で、全体プロ、自主プロに挑戦し、野外活動、キャンプに楽しく過ごすことが出来たのではないのでしょうか。又、自然とのふれあいと共に、各団、各隊、そして人々とのふれあいもうまれたのではないのでしょうか。

子供達の心のどこかに、夏休みの中の 1 つの思い出として、残っていることでしょうか。奉仕の方々も大変御苦労さまでした。

仙南地区 4 団合同夏季キャンプ

白石 1 団ボーイ隊副長補 齋藤太亮

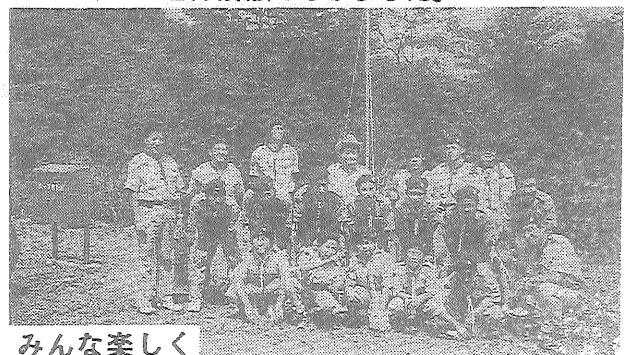
白石 1 団では 7 月 31 日（木）～8 月 3 日（日）までの 3 泊 4 日の日程で国立南蔵王青少年野営場において夏季キャンプを行いました。梅雨明けが遅いために連日“雨”混じりの活動しにくい天候でしたが、スカウト達はそれぞれ「知恵と工夫と勇気で」キャンプ生活を乗り越えられました。2 日からは大河原、角田、村田の各団も合流し、仙南 4 団合同で夏季合同キャンプとなり一層賑やかになりました。特に夕食では、各団ごとに創意工夫を凝らしたメニューを分け合い、同じ仙南地区のスカウト同士の親睦を大きく深めることが出来ました。

その後の営火でも各団それぞれ個性あるスタンプ等を出し合い大いに楽しむことができたものと思ってい

ます。

村田 1 団の布田隊長に準備して戴いた心のこもった薪は、営火中スカウトたちを暖かく最後まで明々と照らしつづけてくれました。

最終日の 3 日は気象庁から梅雨明け宣言がでて快晴の夏空の中での各隊解散となりました。



幻の県北地区野営大会

それはキャンプ前夜、10時30分ごろ。「中止になったよー」隊長から連絡がありました。8月9日、10日の鬼首で行われる県北地区野営大会が台風の影響で中止になってしまった。パッキングも終わり、もう寝ようかと思っていたのですが、一気に目が覚めてしまいました。鬼の隊長の下で万全な準備をしていたのでとても残念でした。しかし、ビーバースカウトやカブスカウトの安全を考えると、やむおえなかったと思います。

今度またキャンプやハイキングなどに参加の機会があれば、日頃の訓練で技術や技能をみがきキャンプで

古川第1団BS隊ツバメ班 松本愛理

その力を発揮したいです。それに、友達と楽しくキャンプをして、過ごしたいです。私は、幼稚園の頃からボーイスカウトを続けています。そして中学2年生の今もボーイスカウトを続けています。そして去年の夏は、初めての大規模なキャンプ、日本ジャンボリーに参加しました。でも、USJなどに行ったりして深く思い出に残りました。これからも経験を積んでこれからのキャンプをもっとよりよいものにしていきたいです。私は、これからもスカウティングを続けていきたいと思っています。

宮城県連続地震被災地支援

県野営行事委員長 平岡 威

宮城県連続地震の被害に遭われました皆様にお見舞い申し上げます。

宮城県連盟では、災害救援ボランティアを7月29日付で緊急募集し、被災地市町のボランティアセンターを通じて支援活動を行ってきました。

活動内容は、避難者の見守り、役場との連絡調整、救援物資・食料の配給業務などでした。

宮城県連盟からの呼び掛けに対し、ご多忙のところ万難を排して地震災害支援活動に参加下さいましたスカウト並びに指導者の方々には大変ご苦労様でした。心から感謝申し上げます。

宮城県連盟理事会では、第2弾として全てのスカウト加盟員が被災地へ支援できることは何かと審議し、



募金に

ご協力下さ～い



倒壊した家屋

被災地に対し義援金を贈ることが最も適切な手段であるという結論に達し、野営行事委員会が担当部門となって、義援金の募金活動を宮城県連盟の組織を挙げて総力を結集して取り組んで貰うこととなり、早速各団にご協力を依頼いたしました。

その結果、9月30日現在の中間の集計では次の通りとなりました。

仙台地区	108,999円
県北地区	132,765円
石巻地区	8,500円
合 計	250,264円

宮城県連続地震ボランティアに参加して

7月26日の宮城連続地震による被災地に対し、我々ボーイスカウトとしてどのような支援ができるのか、29日に鹿島台町、南郷町、鳴瀬町、矢本町を訪問聞き取り調査し、県連事務所にて協議した結果、鳴瀬町の避難所へのボランティア活動を行うことを決定した。

即日、理事長名でベンチャースカウトを中心としたボランティア募集の案内を各団各地区へFAX送信し、私は30日鳴瀬町に先発として入った。

ボランティア参加スカウトは、ベンチャースカウト8名、ローバースカウト1名で活動期間は7月31日から8月8日の9日間であった。

東部地区副コミッショナー 小野幹次

名古屋第12団のベンチャースカウトが友人と7月31日から8月4日の5日間、我々と共に活動してくれた。今回の奉仕活動に参加して感じたことは、災害マニュアルを早急に作成し、迅速かつ適格な指示により奉仕活動ができるよう確立すべきであると思いました。



災害ボランティア活動者名

泉1団	RS隊副長	小野幹治	泉1団	VS	佐藤健太	石巻2団	VS	佐藤広樹
//	RS	高山征悟	涌谷一団	BS隊長	遠藤壮茂	石巻6団	VS隊副長	吉村英樹
//	VS	佐藤隆紀	石巻2団	VS隊長	柳橋利之	//	VS	佐藤 優
//	VS	高橋孝太	//	VS	立野智美	//	VS	標名 真
//	VS	本館拓也	//	VS	立野有美	//	VS	清水章宏
//	VS	今津幸紀	//	VS	対馬 彩	名取1団	RS	斉藤大輔

団 便 り

仙台第1団創立55周年記念キャンプ

県内で一番歴史のある仙台第1団の創立55周年記念式典と団キャンプが7月19日から21日まで松島野外活動センターで行われました。

20日の式典にはスカウト、父兄合わせて約100名、来賓として千田理事長、野中仙台地区協議会長が出席されました。

式典では優秀なスカウトや、隊や団に多大な奉仕をされた指導者、団委員に平野賞、感謝状がそれぞれ贈呈されました。



思い出のキャンプ

記念キャンプはハイキング、ナイトハイク、キャンプファイヤー、そして海水浴と思い出多い式典、キャンプとなりました。

仙台35団の夏季キャンプ

雨の中での田代島野営

7月19日からの田代島での野営は、あいにくの天気でしたが、3日間それなりに活動を行いました。降ったり止んだりの中、磯遊びでカニと戯れ、午後はマウンテンバイクでの島内サイクリング、野外料理での夕食後は暗闇の中の島内夜間オリエンテーリングを実施しました。

20日は雨が時折強く降る中の釣り大会、釣果は荒コック長が捌き、刺身や天麩羅でオイシクいただきました。昼頃からは晴れ上がってイカダ作りに挑戦、3組のイカダは大泊湾内に漕ぎ出しました。キャンプファイヤーの後は打ち上げ花火を楽しみました。

(35団 杜の仲間)より

しか 佐藤 潤

19日に田代島に行きました。ポケットビーチの近くに体がないクワガタがおちていました。たぶんカモメにたべられたものと思います。けれどもまだ生きていました。つぎに海岸に行きました。海の水にさわったら、つめたかったです。

夜に学校できもだめしをしました。おもしろかったです。

20日は雨だったので、つりやいかだ作りもできないと思ったけれど午後から晴れて来て、つりもいかだもできました。いかだは本当にうくのかなと思って実さいにやったら本当にうきました。

夜にキャンプファイヤーをしました。外は寒かったけれど炎の近くはあたたかかったです。

帰るとき、ふねにのる前によいどめのくすりをのんでふねにのったのに5分くらいたってから、きもちわるくなりました。3日間のキャンプははやかったです。

カブ隊夏季舎営

カブ隊長 阿部ケイ子

廃校となった島の中学校を利用して仙台30団と仙台35団のBS・CS・BVS隊の合同舎営を野営のVS隊とともに平成15年7月19日から21日まで2泊3日の日程で田代島の大自然の恵を受けてスカウトは伸び伸びと野外活動を楽しみました。

第1日目は天候不順のために海水浴は出来ず、午後のプログラムはハイキングをしました。夜はコワイ!きもだめし体験です。

“学校の怪談”を2人1組になって一階の入り口から廊下を歩き奥の階段を上り二階に辿り着いたら花びらを1枚持って帰ってくるコース。大声を出すスカウト、一言もしゃべらず怖さをこらえているスカウト・・・みんな勇気がありました。



浮いたぞ僕らのイカダ。出航!

2日目は釣り大会。大物大賞をとったのはカブ隊うさぎのスカウトでした。カブ隊の午後のプログラムは竹とチューブとロープで筏作りと波乗りでした。

最後は土砂降りの雨、予定のプログラムは出来なかったが、大自然の厳しさを学んでくれたものと思いました。

うさぎ 春田大輔

19日はあいにくの雨でした。でも、きもだめしがこわかったですほんとうのおぼけだったらきぜつしそうです。

20日はつりをしました。ほくは初めてだったけど2ひきもつりました。あといかだもたのしかったです。

岩沼1団

地域に密着したスカウティング

「市民まつり」奉仕

寒い夏の汚名を一気に挽回するように暑い太陽が照りつけた8月24日、街の「市民まつり」に団を挙げて参加しました。

スカウトコーナーの設営に大汗を流し、パレードのプラカード奉仕に始まり、サイト内ではスカウト募集のチラシ配り、ガッチリ組み立てた「立ちかまど」は飯盒・コッヘルのコーティングとともに一般市民には珍しがられたり、焼きトウキビや茹でたジャガ芋の試食では喜ばれたりしましたが、暑い陽射しの中で炊事担当は汗ダクでした。ビーバーからリーダーまで主会場に繰り出して大きな声で宮城県連続地震災害の募金を呼び掛け、短時間ながら19,614円の市民の協力があり、この度の地震にボーイスカウトとして何ができるかを考える良い日となりました。



立ちかまどに点火



プラカード奉仕

最後は自発的に清掃奉仕をして夏休の締め括りとなりました。

泉第1団団キャンプ



朝礼での報告



夕食の配膳

2003年8月9日から13日まで、仙台市青葉区の苦地集落センターにて団キャンプを行いました。ボーイは全期間を野営し、カブは3日目に、ビーバーは4日目にそれぞれサイトインし舎営をしました。

団としては8年ぶりの団キャンプで団委員・隊指導者ともに運営が大変でしたが、スカウトが楽しんでいた点やたくましい先輩スカウトの活動の様子を見ることができた点を見ると、ねらい通りの活動ができ、成功だったのではないかと思います。また、早くもスカウトからは次年度も団キャンプを開催してくれとのニーズを受けていますので、次年度は今年の反省を生かしつつ、より良いプログラムを提供できたらと思っています。

BS 泉2団 発団25周年 夏季記念キャンプ

秋田県田沢湖町営キャンプ場 平成15年7月25日～27日

ずっと天気には恵まれていない2003年夏でしたが、やはりキャンプ初日は雨！！

雨天プロとして“けんじワールド”へ行きました。

キャンプ地、田沢湖は天候にもまずまず恵まれて、各隊それぞれイカダ・カヌー訓練。

田沢湖花火大会を見るなど、楽しく活発に活動し行事を終えました。

乳頭温泉郷の湯
カブ隊・♪



♪ イ～イ湯だな～

ながしそうめんをした

迫第1団カブ隊 高橋 愛

今日、カブスカウトがありました。それでフートピアにいったら、つかっているひとがいたのでひょうろ山に行つてながしそうめんを食べることにしました。ひょうろ山についてからながしそうめんのじゅんぴをして、しそとねぎとソーセージとかをきるのがたのしかった！

そのつぎにスイカわりをしました。さっちゃんがスイカにおおきなきずをいれて、わたしがいちばんさいごに、たたきわたたら、たいちょうがスイカを手でわりました。

つぎにながしそうめんをしました。まえのひとがいったいって、わたしはとれなかったけれど、じゅんぱんをかえてもらったら、いったいとれました。みんなおなかがいっぱいになって、きゅうけいしてから、またたべようということにして、きゅうけいじかにスイカをたべました。すごくおいしかったです。それでまたながしそうめんをしました。スイカもいっしょにながしたら、そうめんにからまっていたのでたべられませんでした。

ながしそうめんがおわってから、おかたづけをして、こうみんかんからかえってからボーイ用のロープをもって車のなかでやってみました。

ふるかわまつり奉仕参加

古川第1団V S 隊長 浅野浩信

古川市では毎年8月3日、4日にふるかわ夏まつりが開催されます。

ボーイスカウト古川第1団では、3日午後に行われた古川音頭パレードでベンチャースカウト2名、ボーイスカウト8名、カブスカウト12名、清水水第1団の

ベンチャースカウト2名で28団体のプラカードを持ち、各団体の踊りが遅れたり進みすぎたりしないよう配慮し、古川市の商店街の中にある緒絶の館前を出発して三日町、七日町、台町駅前商店街まで約3キロを先導しました。



プラカード奉仕

迫第1団カブ隊 田代成美

私が一番心に残っているのは、デイキャンプです。その日は雨でした。使った場所の屋根が小さかったのでブルーシートなどを屋根がわりにしました。すいか割りもしました。私が半分割ってもらい、半分を愛ちゃんが割りました。お屋に流しそうめんを食べるので、私はねぎを切りました。「薄く切って」と言われたんだけど、あまり薄く切れませんでした。さきちゃんが一番うまかったです。そして、流しそうめんを食べました。カボチャや、お肉や、ピーマンを焼きました。カボチャがおいしかったです。そうめんのつゆにねぎや、細かく切ったしそのはをいれてたべました。すいかも流れてきたり、すいかの上にそうめんがのって流れてきたりしました。すいかはあまりあじがしませんでした。けれど美味しかったです。そしてかたづけました。私はせんざいと、テーブルと、だいふきんをかたづけました。テーブルがとてもおもかったです。

白石1団第3回野外活動まつり

飯盒V S 電気釜

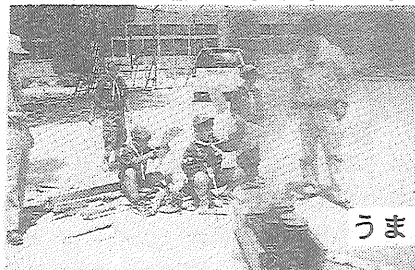
夏休み最後の日曜日8月24日に、一般の青少年にボーイスカウトの1日体験を目的に白石第一小学校の体育館と校庭を会場にして「第3回野外活動まつり」を開催しました。当日は今年の冷夏にも拘わらず、朝からの雲も消えて晴天となり、開会前から自転車に乗った地元小学生や祖父母と一緒に幼稚園児なども顔を見せはじめました。

集まった参加者は開会式からビーバー・カブスカウトと共に参加して、ゲームやフリスビー作りをしたり、慣れない手つきでノコギリや鉋を使って、ボーイスカウトが一日先生になった竹の箸や竹のコップ作りに挑戦していました。

校庭では野菜の包み焼きパイキングやホットケーキを竹筒に巻いたパン焼きも始まり、何回もお代わりをして火のまわりに戻ってきていました。

その横ではボーイ・ベンチャー別動隊は飯盒でご飯を炊いたのですが、その量は5升と半端ではなく、い

つもは1度炊くと終わりなのに炊けたらまた飯盒を洗って二度三度と次々火に掛けていました。団の役員用にと用意した電気釜でも炊飯したのですが、炊き上がり具合は、飯盒V S 電気釜の様相を呈してありました。結果は飯盒の圧勝で電気釜の2～3倍の速さで炊くことができ、回りの人達よりも飯盒で炊いていた本人が一番ビックリしていました。



うまく炊けたかな？

一般参加者は延べ50～60名程度でしたが、仮入隊申込者も出るなどして盛況裡に無事終了することができました。

みんな仲間だ

石巻第1団カブ隊の年プロの中に最後の総まとめとして、野外活動を通して自然保護を学び協調性と仲間意識を高める目的で1泊キャンプを行っている。

今年は7月26日・27日松島野外活動センターの予定でしたが、当地を直撃した地震のために、やむなく中止を決定する羽目になり全員がっかりさせられましたが気をとりなおし翌週近くの水沼山野営場にて、ビーバー隊と合同で入団希望者も入隊体験を兼ねて招待し総勢50人でのデイキャンプとなりました。

スカウト達はやっと出たお日様の下でスイカ割りやキックベースボールをしたり、山間の河原では、宝探しでカニっこを見つけて大喜びする等、盛りだくさんのスケジュールに汗だくになって活動し、お昼の流し

石巻1団カブ隊隊長 木村敏恵

ソーメンを競い合ってますすっていました。

なかでもうさぎに上進するスカウトや入隊体験者もりすの道に深く興味を示していました。

この体験活動が次のステップの糧となり友情バッジが1人でも多くのスカウトの胸に光れば良いと思います。



ソーメンまだかな～

ひだりダヨー

合同野営大会

石巻第2団ボーイ隊隊長 松本 公一

2003年8月9日～12日までの3泊4日、宮城県雄勝町を会場として『2003ボーイスカウト石巻地区合同野営大会』を行った。

今回、同じ石巻地区において活動している石巻第2団・石巻第6団・涌谷1団のボーイスカウト隊のスカウトが、同じにボーイスカウトキャンプ活動を行い、交流をはかり、スカウト各々の進歩向上を目的とした合同の野営大会とした。



仲間とともに

初日を「樺家造りの日」、2日目を「雄勝体験の日」、3日目を「山の日」、4日目を「沢の日」と計画をしましたが、台風10号のお陰で若干のプログラム変更を余儀なくされた。初日のキャンプサイト設営は最悪の最悪、台風10号に見舞われ十分な設営を行わずじまい。2日目は予定通り 天雄寺で座禅会、また硯石でペンダントやコースターのクラフトを行い、3日目は硯上山に登山と、盛りだくさんのプログラムを体験しました。

石巻地区のボーイスカウトが一同に会し、寝食を共に活動し、交流を図れたことが、スカウト並びにリーダーも刺激し合い、今後の石巻地区の発展に繋がると確信しました。



オイシク出来たかな？

編集後記

第2号は平成15年夏休み特集号としました。

何時までも降りやまない長雨、寒い夏、名前だけの夏も終わりました。

宮城県北部地震で被害に遭われたスカウト並びにリーダーの方々に対し心よりお見舞い申し上げます。寒さにもめげず、地震にもめげず、スカウトたちは元気に夏休みの活動に励みましたが、9NAに自主的参加した小山賀旭君とスカウトの心の触れ合いは感動しました。

■ 発行 日本ボーイスカウト
宮城県連盟

■ 編集 宮城県連盟広報委員会

■ 〒981-0915

仙台市青葉区通町1-6-9

宮城県通町分庁舎内

■ TEL/FAX

022-234-2359